

進化論を特別勉強したことはありませんが、ヒトの進化についてときどき考えます。それは、私が専門とする細胞生物学で、細胞の示す実に精巧な働きについて知るとき、いつも深い感動を覚えるからです。例えば、食事として取り込まれた糖がエネルギーになり、水と炭酸ガスに分解される代謝が、多くの酵素により間違いなく整然として進行して行くのに驚きを禁じえません。なぜ、このような複雑な機能が進化の過程で出来上がったのかと感動します。

また、庭の草木の世話が私の趣味です。草木を相手にしていると、草木の生きるたくましさに驚きます。そして、動物よりもはるか以前に地球上に出現した草木が、現在も生き続けているのを眺めていると、現生人の出現や進化のことに考えが及びます。

私が高校生の頃、生物の授業で、サルから進化したネアンデルタール人が、人間の祖先だと教わりましたが、現代では、ネアンデルタール人と、現代の人類とはあまり関係がないことが証明されています。

ただ、20万年ほど前に出現したネアンデルタール人の中に、突然変異がおき、5万年ほど前に現生人が誕生したのではないかと推測されます。そして、進化が急速に進み、現代に至っています。ネアンデルタール人の絶滅が3-4万年前と考えられますので、現代人とネアンデルタール人は、かなり長らく共生していたことになります。

ネアンデルタール人が絶滅し、現生人の時代になった理由は、現生人の急速な進化によることは間違いないと思います。

この進化の原点は、コミュニケーションではなかったかと考えます。音を聞く能力は動物でも十分あります。でも、その音を理解して、考え、相手に伝える能力が、突然変異として現生人に起こったのではないのでしょうか。

ちなみに、ネアンデルタール人も直立2足歩行で、脳の大きさも現生人と同じです。でも、解剖学的には、現生人に比べて喉の奥が短く、上気道は発達していません。このために、分節言語を発生する能力が低かった可能性があります。また、洞窟の壁画は散見されますが、抽象的な模様で意味がよく分かりません。文化遺産がほとんどないと言えます。これらの事実は、コミュニケーション能力が低かったことを示しています。

コミュニケーション能力は、仲間を作り、文化を育てて伝え、進化を推し進めた重要な要素ではないのでしょうか。また、この仲間作りが、差別化も起こし、ネアンデルタール人を異種として滅ぼした結果、彼らの絶滅が起きたのではないかと推測します。

現在、ソーシャルメディアの時代、われわれのコミュニケーション能力は低下傾向だとよく言われています。また、一方、コミュニケーション力アップにより同じ思想をもった連中は、仲間をつくり、お互いを排除しようとする社会現象も見られます。21世紀のいま、人類は退化と進化のどちらに向かいつつあるのかを考えながら、コミュニケーション進化論を楽しんでいます。